



聖母ニュース



編集・発行
社会福祉法人聖母会聖母病院
〒161-8521
東京都新宿区中落合2-5-1
TEL03-3951-1111
<https://www.seibokai.or.jp>



2024年1月1日 当院最初の赤ちゃん

◆理 念◆

愛をもって病める人を癒されたキリストにならい、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみとめます。

◆基本方針◆

1. 生命を尊重し、最善の医療をおこないます。
2. 地域医療機関および福祉施設等と連携し、安心できる医療をおこないます。
3. 病院の理念に基づいて質の高い医療人を育成します。

◆患者様の権利と責務◆

患者様には次の権利が保障されています。

1. 平等かつ適切な医療を受けられます。
2. 人権が尊重されます。
3. 病状、治療について十分な説明が受けられます。
4. 医療内容を選択または拒否できます。
5. 個人情報やプライバシーが守られます。
6. セカンドオピニオンを求めることができます。

◆患者様へのお願い(責務)◆

1. 適切な医療を受けるために、健康(病状)に関する情報を正しくお知らせください。
2. 医療行為に関して納得したうえで意思を明らかにし、指示に従ってください。
3. お互いによりよい治療と療養生活を送るために、定められた規則を守ってください。

聖書のことば

主があなたを祝福し守ってくださいますように。
主があなたの上に顔を輝かせ
顧みてくださいますように。
主があなたに顔を向け、
平安を与えてくださいますように。(民6:24-26)

The Lord bless you and keep you!
The Lord let his face shine upon you,
and be gracious to you!
The Lord look upon you kindly
and give you peace! (Numbers6:24-26)

自分らしく生きること 人間らしく生きること

産婦人科 部長 増澤 利秀

私の好きな曲にスティングの「English man in New York」という曲があります。その歌詞の一部に「be yourself no matter what they say」というフレーズがあり、このフレーズが私は大好きです。「誰が何と言おうと、自分らしさは忘れない」という意味でしょうか。ボーダーレスの時代にあって、自らの立ち位置を失わずに自らの信念に沿って生きてゆくということはとても大切で、自分もこのような思いで生きています。

一方で、故岡本太郎氏は、「自分らしくある必要はない、人間らしく生きてほしい。」と述べていました。岡本氏がどのような思いで人間らしく生きてほしいと述べたのか、その真意

ははっきりとはわかっていないようです。しかし、人々の争いが、得てしてエゴによる利己主義から生じることを鑑みれば、戦争の悲惨さを壁画で表現した岡本氏ですから、戦争のような悲惨な争いを避けるために、相手の心情、立場を理解して、相手を慮る気持ちを持つことこそ人間であると考えていらしたのではないかと私は思っています。

一見すると自分らしく生きることと人間らしく生きることの両立は難しいようにも思えます。しかし、程よいバランスを保ってどちらの生き方も両立させることは、争いの絶えない人間社会では極めて大切であると思っています。

172号の内容

自分らしく生きること 人間らしく生きること…	1	聖母病院創立物語 第8回……………	3
総合診療科通信 第3回……………	2	お知らせコーナー……………	3
眼科通信 第3回……………	2	外来診察表……………	4

ポリファーマシー

総合診療科 部長 南郷栄秀

ポリファーマシーとは、1人の患者さんが数多くの薬を同時に服用している状態のことで、一般には5種類以上の薬を長期にわたって服用している状態を指します。服薬のし忘れや誤りなど、患者さんがすべての薬を適切に管理することが難しくなるばかりでなく、薬剤間の相互作用（飲み合わせ）や副作用の増加といったさまざまなリスクを引き起こします。1つの薬の副作用に対処するために別の薬を使い、さらにその副作用を防ぐために別の薬を足して、とドミノ倒しのように薬が増えていく処方カスケードの問題も指摘されています。

ポリファーマシーは、複数の病気を併存するマルチモビディティの高齢者で特によく見られます。高齢者の場合、薬の代謝を行う肝臓や腎臓の機能が低下しているため、薬の影響を正確に予測することが難しく、より慎重な薬剤管理が必要です。

ポリファーマシーの問題に対処するには、定期的に患者さんの薬剤リストを見直して、役割を終えた薬は中止し、本当に必要な薬だけを継続していくことが重要です。一方、新たな薬を処方する際には、既存の薬との相互作用を慎重にチェックし、副作用や他の健康リスクを最小限に抑えることが求められます。



こうしたプロセスには、患者さんの現在の健康状態や病歴はもちろん、ライフスタイルも考慮に入れた上で最適な薬剤管理計画を立てることが不可欠です。ポリファーマシーは患者さんの全体的な健康と生活の質に影響を与える問題ですから、われわれ総合診療医の役割が大きいです。医師、薬剤師、看護師、栄養士など、多職種専門家が協力し合って、それぞれが自分の知識と技術を活かすことで、ポリファーマシーのリスクを減らすことができます。

さらに、患者さん自身の意識も重要です。処方された薬を飲み忘れてしまった場合は、どうか遠慮なく主治医や薬剤師に伝えてください。薬が効いていないと勘違いした医師がさらに薬を増やしたり別の薬を処方したりする結果、日本全体で大量の薬が廃棄されているという報告もあります。患者さんとのコミュニケーションを通じて健康状態やニーズを理解しながら、医療チームで協力しながら、より安全で効果的な薬剤治療を正しく受けられるように全力でサポートしていきます。



緑内障

眼科 戸ヶ崎英理奈

緑内障という病気についてご存知でしょうか。名前は聞いたことがあるけどよくわからない方も多いと思います。また、視野が欠け失明してしまう怖い病気というイメージをお持ちの方もいるかもしれません。

緑内障は眼圧が高いことや遺伝的な要因、血流不良などの様々な原因で視神経が障害されることにより視野（見える範囲）が欠けたり狭くなったりする病気です。

緑内障は中高年の方に起こる代表的な病気のひとつ

で日本の失明原因の第一位となっています。40歳以上の日本人20人に1人は緑内障と診断されており、高齢者になるにつれさらに患者数は増えるため決して珍しい病気ではありません。



○検査

緑内障の診断には、眼圧検査、眼底検査、OCT（光干渉断層撮影）、視野検査などの検査を行います。人間ドックなどで眼圧の高値や視神経乳頭陥凹拡大の指摘を受けている方は是非眼科を受診して精査を受けるようにしましょう。

○治療

緑内障の治療の基本は眼圧を低くコントロールすることにより、視神経の障害の進行を防ぐことです。眼圧を下げるための手段として薬物療法（点眼薬）、手術、レーザー治療などがあります。

緑内障治療で大切なのは早期発見、早期治療です。現在の医療技術では一度障害された視神経は回復しないので緑内障を完治させることは難しいです。しかし、早期に発見されれば、定期的な通院をして適切な治療を継続することにより失明を防ぎ、生涯視機能を保つことも可能な病気です。症状がなくても治療を自己中断せず、緑内障と長くうまく付き合っていくことが重要です。

聖心聖マルグリット会「恵老院」の事業継承

小児科 部長 猪野雅孝

シャンボン大司教がマリアの宣教者フランシスコ修道会(FMM)に要請した事業は国際聖母病院の創立のほかにもう一つありました。それは麻布のカトリック婦人会「聖心聖マルグリット会」が経営していた老人ホーム「恵老院」の事業継承でした。この婦人会の会長は山本千代子氏(1884-1929、第7回参照)で、「恵老院」は1922年(大正11年)3月19日に大田区(当時は荏原郡)大森の小さな借家で始められた老人ホームです。住む家がなく助けを求める老人が増えるたびに大きな借家を求めて転々と移動していました。婦人会は多数収容可能な養老院にするために敷地を購入していましたが、1923年に起きた関東大震災のため中断せざるを得なくなりました。ところがこの大震災で寄る辺のない老人が急増し、急遽1924年に会員たちが開いた慈善音楽会やバザーの純益金を資金として港区(当時は芝区)白金地区で養老事業を再開し、1926年には10名収容の養老院を西大窪(大久保)に開設しました。経営は会員の会費や布施、篤志家の寄付金などに依存していたため、経済的な保証がない上、借家住まいでは収容できる保証もなく、入所希望者を多数断らざるを得ない状況でした。そのため婦人会は、経



済的な基礎が確立していて、しかも世界的に有名な事業団体に経営を引き渡す希望を抱いていました。そのため、シャンボン大司教はこの老人施設を継続させていくために、FMMに引き受けてほしいと、M.クリゾストム管区長を通してFMM会長のM.サン・ミシェルに要請しました。

M.クリゾストム管区長

ベルギー人のM.クリゾストムは、世界に16か所あるFMM管区のうち日本が所属する管区(日本、中国北部、満州、モンゴル)の管区長を1926年から務めていました。シャンボン大司教からFMM会長に病院の建立とFMM東京修道院の創立を依頼する書簡が届いたのが1928年(昭和3年)2月8日でした。FMM会長から、病院経営を承諾する旨の返信が東京に届いたのは4月4日でしたが、それより前に、管区長は会長の指示で3月19日に滞在していた中国を発ち、3月29日に門司港(福岡県)に到着していました。熊本や人吉(熊本県)を訪問した後、5月2日に東京に到着した管区長は病院を建てる準備の傍ら、「恵老院」を見学し、会長にこの要請を受諾するように求めました。5月24日に会長から札幌滞在中の管区長に「東京老人ホームを受諾せよ」との電報が届きました。即刻、管区長はシャンボン大司教に手紙で次のように報告しました。「老人ホームの件について会長からこの事業の受諾を知らせる電報が届きました。山本夫人とこの事業に関係のご婦人方にお知らせくださいませندでしょうか。これは、もう一つの大事な(病院)事業の実現に向かう第一歩です。」この「恵老院」の事業継承が、国際聖母病院の建設用地選びに大きく影響することとなりました。

ベルギー人のM.クリゾストムは、世界に16か所あるFMM管区のうち日本が所属する管区(日本、中国北部、満州、モンゴル)の管区長を1926年から務めていました。シャンボン大司教からFMM会長に病院の建立とFMM東京修道院の創立を依頼する書簡が届いたのが1928年(昭和3年)2月8日でした。FMM会長から、病院経営を承諾する旨の返信が東京に届いたのは4月4日でしたが、それより前に、管区長は会長の指示で3月19日に滞在していた中国を発ち、3月29日に門司港(福岡県)に到着していました。熊本や人吉(熊本県)を訪問した後、5月2日に東京に到着した管区長は病院を建てる準備の傍ら、「恵老院」を見学し、会長にこの要請を受諾するように求めました。5月24日に会長から札幌滞在中の管区長に「東京老人ホームを受諾せよ」との電報が届きました。即刻、管区長はシャンボン大司教に手紙で次のように報告しました。「老人ホームの件について会長からこの事業の受諾を知らせる電報が届きました。山本夫人とこの事業に関係のご婦人方にお知らせくださいませندでしょうか。これは、もう一つの大事な(病院)事業の実現に向かう第一歩です。」この「恵老院」の事業継承が、国際聖母病院の建設用地選びに大きく影響することとなりました。

お知らせコーナー

緩和ケアのご案内

緩和ケアとは...



- ・身体の痛みや倦怠感などの身体的症状の軽減
 - ・落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛の軽減
 - ・病気との向き合い方や今後の生活への悩み
- など、診断されたときから行う患者さんやご家族の不安や苦痛を和らげるためのケアのことを言います。自分らしい生活を送るためのお手伝いをします。

緩和ケアチームは、以下の専門スタッフで構成されています。

緩和ケア内科医／精神科医／緩和ケア認定看護師／薬剤師／
管理栄養士／医療ソーシャルワーカー／
リハビリテーション科／歯科衛生士

緩和ケアは、いつでも受けることができます。
緩和ケアチームの支援をご希望される場合は、
主治医または看護師へお気軽にご相談ください。

*診療報酬に基づいて算定させていただきます。
詳細を知りたい方は、1F窓口の事務職員にお尋ねください。

聖母病院
緩和ケアチーム

介護予防講座

聖母お元気倶楽部



日時：2024年3月14日 木曜日
場所：聖母病院 5F講義室
時間：13：30～15：30 (受付開始13：15)

～いきいきと笑顔で年を重ねましょう～

1. 自宅でもできる介護予防運動
講師：聖母病院 理学療法士
2. 介護予防講座
テーマ：「人生会議」って知っていますか？
講師：聖母病院看護師 松崎 佐希子 志賀 千鶴
石塚 優子 荒木 佳子
3. 交流会
4年ぶりのお元気倶楽部です。
皆様の近況をお聞かせください。

※参加時にはマスクをご用意ください



※事前の申し込みが必要です。

TEL.03-5908-2238 患者相談室までお電話ください。 聖母病院

外来診察表

◇お知らせ◇ 当院は原則予約制です。ご予約のない患者さまは、お待ちいただく時間が長くなる可能性あることをご承知ください。

(令和6年 2. 1～)

			月	火	水	木	金	土 (第3週休診)
内 科	午前診療	①	濱松 永昌		北濱真理子	宮本 大介	濱松 永昌	宮本 大介
		②	小野 真理	市瀬 裕一	岡野 真弓	東海林英典	小野 真理	市瀬 裕一
		③	宮田 由紀	渡邊 成美	桃井 瑞生	安藤 稔/第5.休	佐々木順子	稲垣 裕介
		④	伊藤 直人	伊藤 直人	東海林英典	伊藤 直人		
		⑤	庫川 恵理	宮田 由紀	庫川 恵理	井上ゆか子	岡野 真弓	庫川 恵理
		⑥	藤井 大輔	八尾 厚史		藤井 大輔		
	午後診療	①	宮本 大介	北濱真理子	馬淵 敬祐	宮本 大介	大河内遼太郎	
		②	伊藤 直人	小野 真理	桃井 瑞生	安藤 稔/第5.休	第1.3.5 宮本大介	
		③	藤井 大輔	宮本 大介		宮田 由紀	交代制	
		④	交代制				第2.4 藤井大輔	
総合診療科 (院内標榜)	午 前				南郷 栄秀		勝俣 元都	
	午 後			正廣 紀衣	勝俣 元都	南郷 栄秀	正廣 紀衣	
内 視 鏡	午 前		鈴木辰典(内科) 東海林英典(内科)	松延修一郎(外科) 濱松永昌(内科)	濱松永昌(内科)	濱松永昌(内科) 宮野省三(外科)	茅島敦人(内科) 東海林英典(内科)	井上幸紀(外科)
	午 後		井原聡三郎(内科) 東海林英典(内科)	濱松永昌(内科) 東海林英典(内科)	濱松永昌(内科)	濱松永昌(内科) 宮野省三(外科)	田中敏明(外科)	
外 科	午 前		井上 幸紀	井上 幸紀	松延修一郎	田中 敏明	井上 幸紀	田中 敏明
乳腺外科	午 前		加藤 昌弘		菊山みずほ	菊山みずほ	甲斐崎祥一	菊山みずほ
	午 後		加藤 昌弘	神野浩光/岩瀬 哲			甲斐崎祥一	
泌尿器科	午 後		額賀 明里			額賀 明里		
整形外科	午前	①	小川 政明	橋本 健史	小川 政明	小川 政明	三箇島吉統	交代制
		②	小林 亜里	小林 亜里	土岐 尋江	小林 亜里		
		③	土岐 尋江			第1.3 村越 薫 第2.4.5 土岐尋江		
	午後			宮本英明 14:00～15:30 (予約のみ)				
産婦人科	午前	初 診	兼子 絢華	坂井 健良(8:45～)	内田 浩(9:00～)	山本 大貴	小野あすか(9:30～)	宮越 敬
		再 診	山内 潤 山内 美和	山内 潤 宮越 敬	増澤 利秀 山内 美和 戸田 里実	山内 潤 山内 美和 兼子 絢華	宮越 敬(10:30～) 戸田 里実	増澤 利秀 戸田 里実(～12:30) 兼子 絢華
	午後診療				胎児診断外来/宮越 敬 第1.3 大森 茂 (14:00～15:00)	腫瘍外来/片岡史夫		
小 児 科	① ② ③ ④		江崎奈緒子 前田 由美 山中 聡子	岩丸 良子 前田 由美 隔月1回 石田 悠(神経)	江崎奈緒子 新貝千賀子	大塚 素子 前田 由美 第3 松井順子(神経) 第3除く 岩丸良子(神経)	江崎奈緒子 高橋 美希	大塚 素子 前田 由美 第1.5 非常勤
				江崎奈緒子(予防接種)	前田由美(予防接種)	高橋美希(予防接種)	大塚素子(予防接種)	
		乳幼児健診		大塚 素子	山中 聡子	猪野雅孝(BCG)	岩丸 良子	
		1か月健診	猪野 雅孝 前田 由美 江崎奈緒子	大塚 素子 岩丸 良子	山中 聡子 猪野 雅孝 山中 聡子	前田 由美 大塚 素子 高橋 美希	岩丸 良子 高橋 美希	
	専門外来		新生児フォローアップ/猪野雅孝 心臓/島田衣里子第2月除く	アレルギー/前田由美 夜尿症/大塚素子 予約/岩丸良子	アレルギー/前田由美 新生児フォローアップ/猪野雅孝 新生児フォローアップ/山中聡子	神経(月1回)/衛藤 薫 予約/岩丸良子	アレルギー/江崎奈緒子 予約/大塚素子 予防接種/岩丸良子 予防接種/高橋美希	
精 神 科			永富めぐみ	永富めぐみ	非 常 勤	永富めぐみ	永富めぐみ	永富めぐみ
耳 鼻 咽喉科	午 前		中川 秀樹	中川 秀樹	濱之上泰裕	齋藤康一郎	中川 秀樹	中川 秀樹
	専門外来		大石 直樹		第2 斉藤秀行			交代制(慶應大)
眼 科	専門外来		音声・嚥下外来	音声・言語外来		音声外来		
	午 前		太根 ゆさ 不定期 戸ヶ崎英理奈	戸ヶ崎英理奈	戸ヶ崎英理奈 河井 明佳	戸ヶ崎英理奈 落合 淳一	海田 千恵 非 常 勤	第2.4 戸ヶ崎英理奈 非 常 勤
皮 膚 科	午前	1 診	松田 薫	松田 薫	手術	特殊予約外来		
		2 診	平山愛里彩	平山愛里彩	小林 里実 矢作 美奈	平山愛里彩/松田 薫/交代制 西山有希子	第2.4 小林里実 第1.3.5 平山愛里彩	松田 薫 平山愛里彩
		予約外来	川上 理子	小林 里実	川上 理子	特殊治療/小林里実	西山有希子	第1.2: 松浦功一
	午後	専門外来	小児皮膚科・小児レーザー/ 川上理子	乾癬・掌跖膿疱症・小児レ ーザー/小林里実	小児皮膚科・小児レーザー/ 川上理子	手術/ 小林里実 平山愛里彩 松田 薫	乾癬・掌跖膿疱症/ 小林里実	
			掌跖膿疱症性骨関節炎/ 石原陽子	ピーリング/ 平山愛里彩 松田 薫	乾癬・掌跖膿疱症/ 小林里実		光線・学童/平山愛里彩	
			光線・学童/松田 薫		光線・学童/矢作美奈			

*休診日：日曜、祝祭日、第3土曜日、クリスマス（12月25日）、年末年始（12月30日～1月3日）

予約センターについて

代表電話からはお繋ぎする事ができません。

全科診療予約については、予約センターにて受付致します。下記時間内に直通電話にてご連絡をお願い致します。

予約受付時間	平 日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～12:30(第3土曜日除く)
予約センター電話番号	03-6908-1717	

※産婦人科・乳腺外科以外の科は、当日予約は受け付けておりません。
※検査の予約変更・キャンセルについて、医療上のご質問がある場合は各科外来へご連絡ください。
※診療状況によりご希望の日程で予約が取れない場合がありますが、予めご了承ください。

編集後記

本格的な春の到来が待ち遠しい今日この頃。
いち早く春を告げてくれるのが梅の花ではないでしょうか。つぼみが膨らみ、これから可憐な梅花の見頃を迎えます。花が開くと凛とした姿とともに、梅の香りが漂ってくるのも印象的です。
春の訪れを見逃さないよう、毎日の通勤の楽しみにしたいと思います。
T.O